

岡集落「集落営農ビジョン」

作成日：平成21年 5月13日
 修正日：平成 年 月 日

市町村名	大山町	組織名	岡水稻生産組合
1 地区の範囲 西伯郡大山町 岡地区			
2 地区の概要			
水田面積	18.96 ha		
主な水田栽培作物	水稻、ブロッコリー、ネギ		
農家数	33 戸		
認定農業者数	2 経営体		
地域水田農業ビジョンの担い手数	2 経営体		
3 組織化の目標（設立時期の目標は、事業実施年度内とする。） ・設立時期（規約等の制定日）【昭和52年2月3日】			
	組織形態（該当形態に ）	加入農家数	
【現状】前年度実績 （20 年度）	・ 未組織 ・ 共同利用型 ・ 作業受託型 ・ 協業経営型	32 戸	
【目標】事業開始翌年度 （22 年度）	・ 共同利用型 ・ 作業受託型 ・ 協業経営型	32 戸	
4 集積率（機械の共同利用と作業受託）の目標			
項 目	【現状】	【目標】	
集 積 面 積	10.08 ha	10.30 ha	
うち経営及び作業受託	10.08 ha	10.30 ha	
対象水田面積 A	13.69 ha	13.69 ha	
集 積 率 / A	73.63 %	75.25 %	
うち経営及び作業受託 / A	73.63 %	75.25 %	
注1) の集積率の目標は採択要件。50%超が必要。 2) の作業受託による集積率の目標が、50%超の場合は事業費上限10,000千円、（新規組織の場合は事業費上限20,000千円）50%以下の場合は事業費上限5,000千円。 3) 集積面積の詳細は、別表「集積目標（実績）一覧」により作成。			

I 集落営農に対する基本方針(自由に記載)

【集落農業の現状と課題及び課題を解決するための対応方針】

1 担い手の明確化及び水田利用集積目標

岡集落は、大山町の東側(旧中山町の北西)平坦部に位置し、北側が日本海に面しています。また、周囲を水田に囲まれながらも集落の中心を国道9号線が横切っている戸数40戸の集落です。40戸の内訳としては専業農家3戸、兼業農家30戸、非農家7戸という状況であり、集落水田面積は18.96haです。水田面積18.96haの殆どの面積を岡水稻生産組合と地域水田農業ビジョンに位置づけられた担い手2戸(認定農業者)が集積している状況です。

水稻生産組合は、昭和52年に農業構造改善事業によるほ場整備とともに設立され、これまで機械の共同利用や作業の受託を進める中で、水稻生産コストの低減に一定の成果を上げてきました。現在、当集落では、担い手2戸が6.77haを集積して、転作による町特産のブロッコリー・白ネギの栽培に取り組んでいます。一方で水稻生産に関しては、生産組合が重要な役割を担っており、32戸(全ての農地を貸し出ししている農家6戸を含む。)の農家が組合員として、集落の大部分の水稻各種作業を受託し10.08haを集積しています。このように集落の中で、水稻生産組合は水稻栽培作業の受託組織として不可欠で重要な役割を果たしています。

今後とも、水稻生産組合は集落の担い手として、さらに各種作業受託面積を増やしていき、将来的には中山間直接支払制度の同一団地内で入会になっている他集落所有者の要望に応じて、荒起、代かき、収穫、畦塗り等の受託を行うとともに、新規に田植作業を受託することで、水稻生産の一貫受託を進めたいと考えています。

地区水田面積(担い手集積面積を含む。)2,045.5a(地区外149.4a)に対し、1,029.9a(地区外113.3a)を当組合の集積の目標としています。

2 水田作付計画、生産調整の方針・具体策

岡集落では水稻生産組合が水田作付計画を定め、水稻の各種作業を受託しています。水稻については、町の生産調整を遵守しながら作付けしていますが、コシヒカリの栽培面積が約100%を占めており作業が集中するため、新コシヒカリ等の作付けを増やして作業の分散を図るとともに収量・品質の向上を目指します。また、転作についてはブロックローテーションによる団地化を積極的に進める中で、担い手が中心となって、町特産のブロッコリー・ねぎの高品質生産を行っています。

3 農業用機械施設の効率利用

水稻生産組合では、各種作業受託面積を増加させていき、新規に若手オペレーターの確保を進めてきたところですが、現在使用しているコンバインが11年経過しており、耐用年数が経過し、年々、修理費の増加及び作業能力の低下が著しく、予定どおりの安定した作業ができないなど、組合員の作業依頼に応えきれれていません。このような受託困難な農地が出てくる心配を早急に解消しなければなりません。

組合員の作業依頼に的確に応えられる効率的な作業体制の確立を図り、そして将来の目標を達成するための組織の充実と強化を図る必要があります。そこで、現在のコンバインより出力が大きく作業量の拡大を可能にし、操作しやすく高能率作業を実現させ、かつ整備から作業途中までのメンテナンスが容易なものを導入して、**現在9haの収穫作業の受託面積を10haまでに拡大します。**

そして、導入するコンバインと併せて組織所有機械を一体的に効率利用するため、平成16年にチャレンジプラン支援事業で導入したトラクター・代掻きハロー・畦塗り機を活用して水稻各種受託面積の増大を図るとともに転作田の耕うん作業も受託するようにして、**現在10.08haの耕うん等の作業面積を10.30haまでに拡大していきます。**また、現在は全てを個人所有で対応している田植機についても、**将来的には組織で購入し、個人所有の田植機を順次廃棄するごとに、その面積を組織で集積する考えであります。**さらに、機械稼動前後の点検整備を励行するとともにオペレーターの研修会を開催して運転技術の向上を図り、生産機械の保守と効率利用を目指します。なお、水稻の乾燥調整についてはほぼ全量、JAのライスセンターを利用していきます。

4 経営の多角化の方針・具体策
該当なし。

農業用機械施設の整備方針

1 機械施設の整備計画

機械施設名	規格能力	台数等	金額(円)	導入予定年月	本事業による 機械導入に
コンバイン	4条刈56ps	1台	6,700,000	平成21年8月	
田植機	未定	2台	未定	未定	